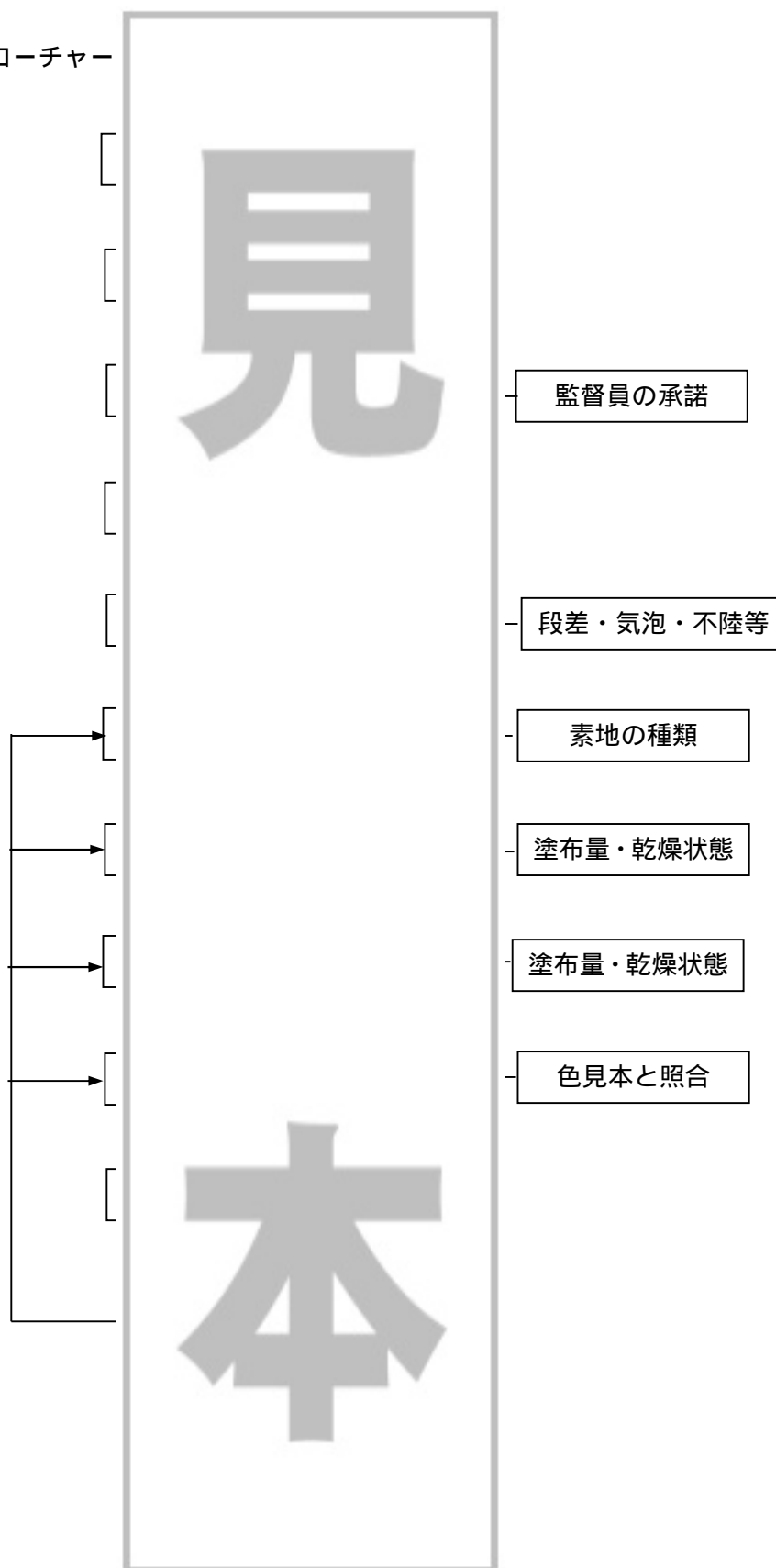


(6) 施工

1) 塗装工程フローチャー



2) 共通確認事項

- a. 気象条件・・・天候
- b. 作業条件・・・安全
- c. 有資格者・・・有機
- d. 下地調整・・・汚れ
- e. 塗り工法・・・刷毛
- f. 色彩・艶・・・指示
- g. その他・・・塗り
- h. 養生・・・塗装
- i. 塗面保護・・・塗装

風雨、天気予報の確認
状態

やサンドペーパー等で除去する。

しないように注意し、必要に応じあ
ニール等で養生をする。

間には、他物質との接触を避けるた
めの

3) 作業工程

塗装箇所	種別
内部鉄骨 見えがかり部	SOP 1回塗り
外部鉄骨 見えがかり部 (鉄部各所・ 鋼製建具など)	SOP 2回塗り
ケイカル板面	VE 3回塗り

	塗布量	乾燥養生時間
ト)	0.08kg/m ²	24時間以上
ト)	0.09kg/m ²	16時間以上
	0.08kg/m ²	24時間以上
レ樹脂	0.08kg/m ²	2時間以上
レ樹脂	0.08kg/m ²	2時間以上
)	0.08kg/m ²	24時間以上

4) 施工時の気象条件等

- a. 気温が5 以下のと
っては施工を中止す
- b. 温度が低いとエマル
形成しにくく、ヒビ
は反応が進まず硬化
- c. 風速 5 m/秒以上の場
また、第三者的な飛
ト等で養生措置をとる。
- d. 塗布した塗材が未乾燥のうちに雨にあたると流出してしまう。施工前に降雨があった場合は、下地に水分が残り高い含水率を示すことがある。

あるので十分に注意し、場合によ

以下では乾燥しても完全な塗膜を
等の反応型材料の場合は、低温で

低温時の場合は注意が必要。

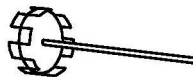
風の影響を少なくするためにシー

- 下地が十分に乾燥したのを確認してから施工に入る。(含水率 10%以下)
- e .晴天の続く日であっても、夜中の冷え込みから朝方には壁面に結露を生じていることがあり、施工面に結露が生じている場合は、塗料の付着不良の原因になる。
- 下地が十分に乾燥している。(含水率 10%以下)
- f .湿度の高い日に室内湿度を調整する。湿度が高いと、塗料の乾燥が遅く作業性が悪くなる。
- g .気象条件による不良の原因を調査する。必要に応じて、対策を講ずる。

6) 施工方法

a . 塗料の調整

- (1) 原則として、調合された塗料をそのまま使用する。
- (2) 貯蔵中に均一な品質を保つため、定期的に攪拌し、製品になっている状態を確認し、作業前に所定のシケを調整する必要がある。
- (3) 係員は状況に応じて、調整の必要かどうかを確認する。
- (4) 所定の調合場所以外で調整しない。
- (5) 塗料は貯蔵中に分離を防ぐため、定期的に攪拌し、均一な状態を維持する。



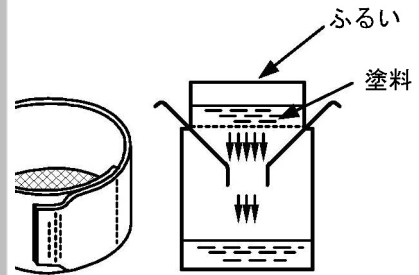
- (6) この場合かくはん等を行う。
- (7) こし分けに用いるふるい

意が必要である。

に適した粘度より若干高い粘度の塗料を使用する。艶の程度、気温の高低等に応じて、必要に応じて調整すること。

に会って、その指示が守られている。

に生じている場合があり、使用前に確認する。



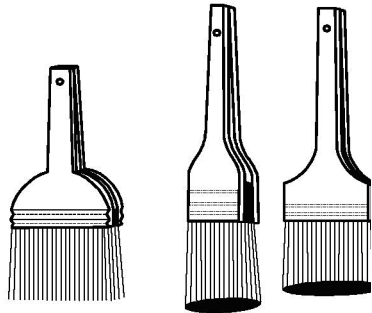
こし分け等は、必要に応じてこしわけす。

塗料の種類	ふるい (JISZ8801 標準ふるいによる)	備考
調合ペイントの類	0.250 ~ 0.125mm	しごき

b. 塗料用器材

塗装に使うはけ、ローラーは、境界、出隅、入隅など特別なように均等に塗る

犬並びに毛質のものを使い分け、色こし、たまり、流れ等の欠点の生じ

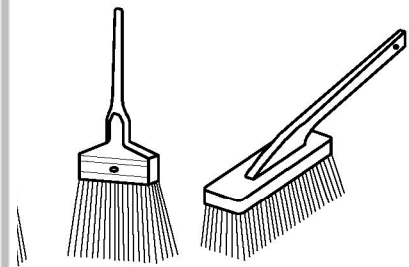


水性刷毛

ずんどう

むらきり

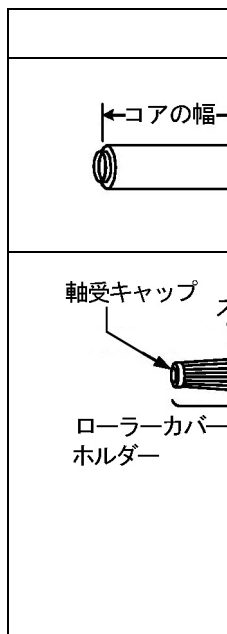
平刷毛



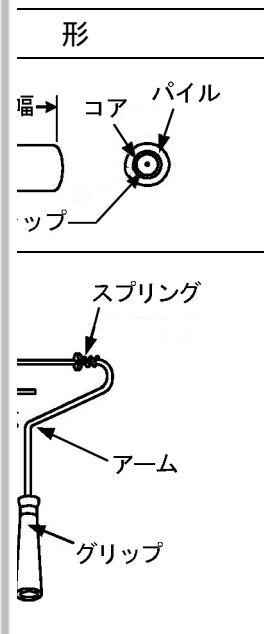
洋刷毛

たたき刷毛
(左官ブラシ)

メリケン刷毛



吹付けに使う塗装用スポンジの種類、口径、空気



の形状、面積の大小等に応じて、ガ

見

本



見

パテ塗り面等を平滑にパテを厚付けした場合サンドペーパーで目的の平滑コンクリート素地等として、電動研磨機を使



c . 塗り工法

塗り方は、はけ塗り、吹色違い・隅々等は乱さ原則として扉の上下、については入念に行う

d . 塗装仕様

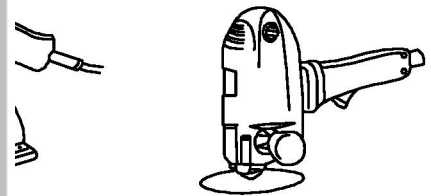
表示されている放置時間を示すもので乾燥膜厚において、塗る。

工場塗装と現場塗装に分を補修した後、現場

e . 作業の中止

塗装時の気温が 5 以下の場合は塗装しない。また塗装作業は日没 2 時間前までで打ち切るものとする。

合にサンドペーパーを用いる。で荒とぎし、次に細かい番手のサンドで錆の付着が大きい場合、荒とぎと



塗料・施工部位に適した工法とし、確に塗分ける。

特に外部まわり、湿気の多い箇所

ときの次の工程に移るまでの最小きは、放置時間を検討する。

は標準塗厚の 80%以上を目安とす

塗装下塗り面を研磨清掃し、損傷部

本

湿度が 85%を越えたときは塗装しない。

外部塗装において、塗装前に降雨、結露、降霧のおそれのあるときは塗装しない。

風が強く、砂塵が飛散するときは塗装しない。

鉄面の表面温度が高く

素地調整が終了したら

に塗装が終わらない場

周囲で行われているそ

傷のおそれのある場合

f . 廃棄物の処理

- ・塗装終了後に発生する
- う。

7) 塗装工法におけるチェッ

a . 刷毛塗り

指定の塗料に適合した

刷毛は、よく洗浄され

刷毛塗りは、はけ目通

仕上がり面に、だれ、

b . ローラーブラシ塗り

塗料に適合した大きさ

塗付量に適合した毛の

塗装時のローラーの回

塗装作業はローラーマ

隅、ちり回り等は専用

仕上り面に、だれ、す

c . エアスプレー方式吹付

塗装開始前に周辺部分

塗料が所定の粘度に調

スプレー塗装時の空気

塗装作業の被塗物とス

スプレーガンの運行速

スプレーパターンの形

d . エアレススプレー方式

塗料が所定の状態にな

塗料に適合したノズル

塗料が所定の圧力に加

か。

被塗物とスプレーガンとの距離及び運行速度は一定か。

仕上がり塗膜は膜厚が均一で、だれ、すけ、むら等の発生はないか。

ときは塗装しない。

るようにする。もし、その日のうち

素地調整を行ってから塗装する。

適当になった場合、または塗膜の損

害に関する法律」に基づき処理を行

るか。

いるか。

均一に塗装しているか。

に塗られているか。

用しているか。

いるか。

られているか。

適切な施工条件となっているか。

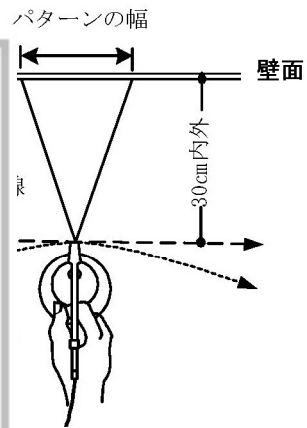
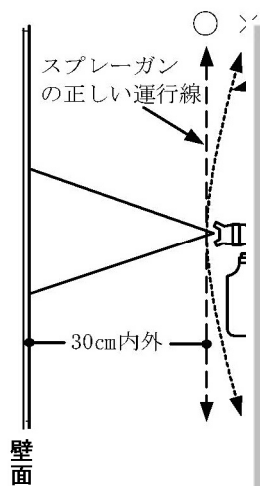
れているか。

、むら等の発生はないか。

パターンにテールが発生していない

見

本



見

e . パテの塗り付け

パテかけ時には、素地とパテを残す場合は、素地とパテをしごき取る。パテ付けは、パテで全面に行う。耐久性を要求

するのため注意しなければならない。平滑にするようパテを残し、過剰なパテを削ぎ取る。耐久性を要求される仕上げの場合に削ぎ取りを行わない。

8) 施工上の注意点

- a . 本施工に入る前に必ず事前に、下地の差などが
- b . 各塗装工程の間隔は正しく保たれていくと、膨れや剥がれを防ぐことができる。
- c . 足場板の影の部分はムラが生じやすいので、ムラがないように確認する。

を得るようにする。あらかじめ承諾を得ておく。あるいは未硬化のうちに上に塗り重ね、規定以上のオープンタイムを取

9) 養生

養生は汚れ防止のため除去する必要がある。養生テープは施工後2週間養生材：ポリフィルム施工面とテープとの境目をしっかりと接着させる

- 1、足場をはずす前には必ず自主点検を行う。
- 2、養生テープ等に誤って付着したときは迅速に剥がす。
- 3、養生テープの剥がれ防止のため、養生テープの両面に養生材を貼る。
- 4、養生テープの剥がれ防止のため、養生テープの両面に養生材を貼る。
- 5、養生テープの剥がれ防止のため、養生テープの両面に養生材を貼る。

本

10) 自主検査

	検査項目
1	下地状態の確認
2	施工環境の確認
3	使用材料の確認
4	使用材料の取り扱い
5	塗装機材の選定
6	塗装前の養生
7	塗り方
8	塗装面の保護
9	清掃
10	検査・手直し



点
下地としての適性を確認する。
の状態に注意し、施工環境とし
忍を行う。
り扱いを行う。調色は工場調色よく攪拌してから使用する。
等は塗料の種類・粘ちゅう度お
ずる。
汚さないよう適正な養生をほど
ムラ、はがれ、しわ、刷毛目等
、各塗り重ね工程においては、
忍する。
間は、物との接触、水または油
を施す。(立ち入り禁止、張り紙
り清掃を行う。
艶の班・カスレ・刷毛目その他
直しを行う。